

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20402043

研究課題名（和文）北欧4カ国における高齢者介護システムの多様性とその要因に関する比較分析研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Elderly Care System in Nordic Countries - Analysis of Factors in Differences

研究代表者

山井（斉藤） 弥生（YAMANOI (SAITOU) YAYOI）

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：40263347

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：北欧、比較分析、高齢者介護、北欧モデル、歴史文化

## 1. 研究計画の概要

(1) 研究目的: 北欧4カ国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）を研究対象とし、各国の高齢者介護システムの多様性を示し、①各国の歴史文化、②政治動向、③介護政策の視点から、その多様性の要因を比較分析し、明らかにする。

(2) 研究計画: 上記目的の達成に向けて、以下の4点を明らかにするための研究計画を実施している。①北欧4カ国の高齢者介護システムを明らかにする。②北欧4カ国の高齢者介護をめぐる民間セクターの状況（主に市場機能、家族機能、市民セクターに焦点をあてて）明らかにする。③北欧4カ国の高齢者介護の多様性を総括する。④多様性の要因について文化および歴史的視点、政治的視点、介護政策的視点から分析し、明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 定期的な研究会の継続（年3～5回）  
定期的な研究会では①研究成果の確認、②研究計画の確認、③現地調査の打合せ、④学会発表、論文発表の計画確認を行っている。

(2) 現地調査および資料収集（年1～2回）  
各自の計画に合わせて、北欧諸国での現地調査および資料収集を実施した。2008年度にはオスロ（ノルウェー）、スベンボー（デンマーク）でホームヘルプサービスのシステムと最新動向についてヒアリングを行った。オスロでは海外共同研究者の安倍オースタッド玲

子教授（オスロ大学）の協力を得た。

2009年度にはトロムソ、ナルヴィーク、ロフォーテン諸島（いずれもノルウェー）で北極圏にある小規模自治体で介護システムに関するヒアリング調査を実施した。

2010年度にはヴェクショー（スウェーデン）、ヘルシンキ（フィンランド）で介護サービスの最新動向についてヒアリングを行った。ヘルシンキでは山田真知子氏（ヘルシンキ大学）の協力を得た。またサントペテルブルグ（ロシア）、ビューボー（ロシア（カレリア地方の旧フィンランド領）を訪問し、現地研究者との研究交流を通じて歴史的資料を収集した。コペンハーゲンで開催されたデンマーク国立社会研究センター国際会議（2010年6月21～23日）に出席し、海外研究協力者であるセベヘリ氏（ストックホルム大学）、クリステンセン氏（ベルゲン大学）の研究報告を聞き、同氏らと今後の研究調査についての意見交換を行った。

## (3) 海外共同研究者の招聘

2008年度に安倍オースタッド玲子氏（オスロ大学）、2009年度にマルタ・セベヘリ氏（ストックホルム大学）、山田真知子氏（ヘルシンキ大学）を招聘し、現地調査の打合せおよび情報提供を受けた。

## (4) 「ホームヘルプに関する国際比較調査」の予備調査実施

豊中市内の介護サービス事業者の協力を得て、ホームヘルパー約50人を対象に、セベヘリ氏らが7カ国を対象に実施した調査

と同じ質問票を用いて、アンケート調査を実施した。

### 3. 現在までの達成度

#### ② おおむね順調に進展している

進捗状況に整理してきたように、本研究は海外共同研究者の都合等で、内容に若干の変更もあったが、おおむね計画通り進んでいる。

研究成果の公表についても、主なものだけで雑誌論文6件、学会発表5件、図書2件の研究成果を出している。特に英語による図書の出版(図書②)により、海外共同研究者との研究交流が進み、またネットワークが広がるきっかけになっている。北ヨーロッパ学会(学会発表①④⑤)、日本社会福祉学会(学会発表②③)での発表は、北欧の高齢者介護研究において、北欧諸国間の比較研究という新たな視点を提示する事ができた。

### 4. 今後の研究の推進方策

2011年度は本研究の最終年度にあたるのでこれまでの研究成果を総括する。各研究者はまとめの作業(現地調査を含む)を行い、4年間の研究成果の総括ペーパーを作成する。これは今後、出版に向けて編集をしていく予定である。

また齊藤(研究代表者)は2011年9月末から9カ月間、ストックホルム大学に滞在し研究を行う予定である。海外共同研究者との連携を強化し、本研究の発展的継続を視野にいたした計画を考え、次期の科研費補助金への応募に備える。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ① 齊藤弥生、「24時間体制の在宅介護サービスの確立に向けて」、『世界と議会』、552号、11-17、2011、査読無
- ② 齊藤弥生、「海外のソーシャルワーク教育から学ぶ」、『月刊福祉』、93巻、25-31、2011、査読無
- ③ 石黒暢、「社会サービスにおける「選択の自由」とは—デンマークのホームヘルプサービスを例に—」、『IDUN—北欧研究』、第19号、2010、査読有
- ④ 齊藤弥生、「24時間体制の在宅介護サービスをどう築けるのか—海外事例にみる介護の「供給エリア」—」、『生活共同組合研究』、414号、30-39、2010、査読無
- ⑤ 齊藤弥生、「スウェーデンにおける介護職員の労働条件向上へのアプローチ—連帯

賃金政策とジェンダー平等からの戦略—」、『北ヨーロッパ研究』、5巻、1-14、2009、査読有

- ⑥ 田辺欧、「アンデルセンと旅のナラティブ(2)」、『IDUN—北欧研究』、第18号、2009、査読有

[学会発表](計5件)

- ① 岡澤憲英、「ダイバシティ・ウェルフェア・マネジメント」、北ヨーロッパ学会、2009年11月28日、大阪大学
- ② 齊藤弥生、「北欧諸国間の介護システムの比較研究(2)—ノルウェーの現地調査からの報告(ホームヘルプに焦点をあてて)」、日本社会福祉学会、2009年10月10日、法政大学
- ③ 石黒暢、「北欧諸国間の介護システムの比較研究(1)—デンマークのホームヘルプ自由選択制度について—」、日本社会福祉学会、2009年10月10日、法政大学
- ④ 齊藤弥生、「スウェーデンにおける介護職員の労働条件向上へのアプローチ—格差是非の政治学：北欧諸国の対応」、北ヨーロッパ学会、2008年12月6日、早稲田大学
- ⑤ 田辺欧、「19世紀末のデンマークにおける黒衣の女性をめぐって」、北ヨーロッパ学会、2008年12月6日、早稲田大学

[図書](計2件)

- ① Yayoi Saito, Kyoto University Press, Meeting Challenges of Elder Care: Japan and Norway, 2010, 185
- ② 齊藤弥生、中央法規出版株式会社、『新・社会福祉士養成講座第4巻現代社会と福祉』、2009、288-301